6．学生スタッフの班活動

ボランティア･NPO活動センターでは､学生スタッフが日常的に活動しています。センターの活動や認知度を高めたり、センターの環境を整えたり、また、コーディネートのスキルアップなどを目的に、班に分かれて活動しています。

2022年度も昨年度に引き続き、年度前半はコロナ禍のため活動制限はありましたが、班によっては計画を立て直し、工夫しながら取り組んでいました。後半は、活動制限が緩和され対面での活動も増え、班活動も活発になりました。

班　　名	コーデ班（深草）
趣旨・目的	学生スタッフのコーディネートに対応する力を向上させる。
班メンバー	濵田　葵（文学4）　早川歩伽（文学4）　永野凌平（経営4）　千葉圭喜（文学3） 大原健太郎（経営3）　伊野涼雅（政策3）　松本裕生（政策3）　鄭　叡智（国際3） 太田雄斗（文学2）　馬塲康世（文学2）　太田早紀（経済2）　掛川大輔（経済2） 加藤秀大（経済2）　影裡天音（経営2）　白井秀実（経営2）　長堂佑志（法学2） 田渕勝士（法学1）

1. 活動目標

来室者に対して適切なボランティアコーディネートを実施できるよう、学生スタッフのコーデ力の向上をサポートする。

2. 活動内容

A.【模擬コーデ】
前期に模擬コーデ週間を設け、日誌に付箋でコメントを書いてもらった。後期も模擬コーデ週間を設けた。

B.【コーデ力向上プログラム】
前期に［Project C］と題し、コーデの基本的な流れとリユース傘や本の貸し出しを撮影、動画を編集してミーティングで共有した。

C.【コーデしやすい環境作り】
相談受付シートの裏面分析を行い、ポイントを押さえて書きやすくするためのワークを作成し、2023年度４月中に実施予定。

D. その他
- リユース傘の貸し出し管理
- 班プレゼンの班紹介パワポ、パンフレット作成
- コーデマニュアルの更新、シフト表、名札作成
- 簡略化したボランティア保険の資料配付

3. 目標達成度

A.【模擬コーデ】
前期はコメントをコーデ班内で分析したが、評価測定ができていなかった。後期は呼びかけを行ったが、実際に取り組んだシフトが少なかった。評価測定を行うとともに、呼びかけをしっかりして全てのシフトで模擬コーデが実施できる環境を整備したい。

B.【コーデ力向上プログラム】
ミーティング中に４回に分けて行ったのでみんなが集中して聞いてくれた。参加した新スタからは好評だった。しかしプログラムへの参加者が少なかったため、参加できなかった人へのフォローや事前の呼びかけなど、参加率を上げる事が今後の課題である。

C.【コーデしやすい環境作り】
相談受付シートの分析は新スタがいる中で班内でも理解に差があり、なかなか進まなかったため、今年度中にできなかった。相談受付シートの分析から行い、現在はワーク作成中。４月初回のミーティングで実施予定である。

D. その他
- リユース傘の点検を行い、折り畳み傘の貸し出しも始め、利用者の利便性が向上した。
- 班紹介のパンフレットは班のことがよく分か

るとの声があり好評だった。

4. 学んだこと・今後の課題

来室者対応に不安のある学生スタッフにとって、動画を通して基本的な流れを知ってもらい、コーデの基礎の部分がおさえられたことがとても良かった。今年度はミーティングを全て対面で行ったため、みんなで集まって意見を出してもらいつつ進めていけた反面、ひとつひとつの活動に時間を要してしまった。

議事録はGoogleドライブを使って共有を行った。過去の活動が見返しやすく次年度も継続予定である。

今年度の前期にはスケジュール管理ができており、活発に活動できていた。しかしメンバーが増えて日程調整が難しくなった事や、ミーティング以外に活動の機会が無かったため、後期にミーティングなどで人が集まらず活動が失速してしまった。そのため、長期休みやミーティングの開催日なども考慮しながら事前にしっかりとスケジュール管理と調整を行う必要があった。

来年度は、班活動での経験がまだ浅い学生スタッフが班長、副班長になったため、４回生のコーデ班員が適度にサポートを行う必要があると考える。

〈報告者：大原 健太郎〉

班　　名	広報班（深草）
趣旨・目的	龍大生と教職員に対して龍谷大学ボランティア・NPO活動センター（以下、センター）が行っている活動を、各種広報媒体を通して認知してもらう。
班メンバー	川根脩那（経済4）　園原　聖（法学4）　竹内祐人（法学4）　喜多真央（文学3） 井関萌乃（文学3）　NGUYEN NGOC THUC（文学3）　岡　智浩（文学3） 西上和希（法学3）　馬越友梨（文学2）　富銅柊介（文学2）　的場美佳（文学2） 水口璃々佳（経済2）小木曽圭太（経済2）　八田知紗（経済2） 小倉未椰（経営2）　長峰拓未（経営2）　渡辺湖都子（経営2）奥田真史（政策2） 川勝裕太（経済1）　松田理莉緒（経済1）　兒嶋　愛（政策1）

1. 活動目標

深草広報班は、センターでの活動を学内外に広めるための活動を行っている。活動目標は、作成した発行物・運営する各種SNSを通して、センターの認知度を上げ、来室者の人数を増やすことである。

2. 活動内容

A【広報誌『ボラゴン』の発行】：

今年度は年２回、前期号と後期号を発行した。広報班全員で作成し、普段の来室者やイベントに訪れた人に配布したほか、センター前にも設置した。

B【リーフレット『ボラセンタイムズ』の作成】：

月１回の発行を目標に、ボラセンタイムズチームが作成を担当した。

※学生スタッフの活動を全学に向けて広報して、龍大生に興味を持ってもらう。ボラゴンとは違い、一枚の紙で配って手軽に配れることが特徴。

C【Twitter・Instagram発信内容の作成】：

週１回の更新を目標に、SNSチームが作成を担当した。媒体によって表現を変更するなどの工夫をした。

D【ボランティアマップの作成】：

後期を通して、広報班全体で作成した。主に深草キャンパス近辺の活動を模造紙にまとめ、12個の活動を紹介した。

3. 目標達成度

【Aの目標達成度】：

新歓で最も多く配布したほか、センター前に設置したものも減りがよく、知名度の向上に役立っていると考えられる。

【Bの目標達成度】：

『ボラゴン』に比べて手軽で回転率が高い紙媒体の広報を目指した。しかし、各学期で２回ずつしか発行できず、また減りも悪かった。

前者はスケジュール調整の徹底、後者は構内に設置場所を増やすことで改善できると思われる。

【Cの目標達成度】：

学生と職員が様々な視点から投稿を行った。SNSを見て活動を知ったという学生も多く、知名度の

向上や、来室人数の増加に最も役立っていると考えられる。

【Dの目標達成度】：

大学周辺のボランティア活動を一覧化できたほか、紹介文を書くため活動に赴いたことで、班員全体の活動への理解度が向上した。春休みより掲示を開始したため、認知度や来室人数の増加につながるかについては今後検証していく。

4．学んだこと・今後の課題

【学んだこと】

作業を適切に振り分けることで、全体の効率が大きく向上するということを学んだ。昨年度以前は全員が持ち回りでタスクを行っていた。しかし、人数の都合上各々の作業頻度が低く、モチベーションが下がっていた。そのためタスクを分割し、班内で専門のチームを作ることで、各々が効率的に活動できるようにした。結果、効率化が進んだだけでなく、班員の活動に対する熱意も向上した。

【今後の課題】

・写真の少なさに悩まされた１年であった。目を引く掲示物を作成する上で、写真の重要性を強く感じた。今後も継続して、学生スタッフ全体に、積極的に写真を撮るように呼びかける。

・ミーティングの出欠連絡、ボラゴンの内容確認など、連絡不足によって度々行き違いが発生した。改善のため、班内でダブルチェックを行うように喚起した。

〈報告者：喜多 真央〉

班　　名	アクティブ班（深草）
趣旨・目的	「センターをより活発にする」ことを目的として活動する。主な例としては、来室者の増加を目指すPOP作りや、学生スタッフのコーデ力とボランティアへの意識の向上を目指したボランティア参加のきっかけ作り等を行う。
班メンバー	石井翔大（法学4）　谷垣俊弥（法学4）　小林初音（国際4）　崇田ゆきの（文学3） 西村柊哉（文学3）　三野涼介（経済3）　松本航紀（経営3）　宗森公希（法学3） 神月麻伽（文学2）　山下陽菜乃（文学2）　松嶌和奏（文学2）　榎　海斗（法学2） 靏田優斗（法学1）　中島　啓（法学1）　西林勇貴（政策1）　内田美羽（国際1）

1．活動目標

学生スタッフに多くのボランティア参加をする機会を提供する。そこでの経験をボランティアコーディネーションに活かしてもらえるようにする。

またその活動を記録し、広く閲覧出来るようにする。内容は閲覧した学生スタッフのボランティアコーディネーションの手助けになり、またアクティブ班員が班活動に活かせるようなものを目指す。

その他に、センター内を装飾し、来室者が入ってきやすくなる雰囲気作りをする。

2．活動内容

A．新規ボランティア参加

前期に３件、後期に３件のボランティアに参加した。１件につき班員を３～４名に振り分け、それぞれで学生スタッフに向けて参加者募集を行った。またボランティア参加後、学生スタッフミーティングで活動報告を行った。

B．班活動の記録媒体の作成

活動記録のアルバムを作成した。写真と共に活動内容や班員の感想などを載せ、センター内に配置した。

C．POP作成

春に桜の木をはじめとした春らしいPOPを作成し、センター内を装飾した。

3．目標達成度

A．新規ボランティア参加

今期初頭のミーティングで立てた「前期と後期に各班員が最低１回ずつボランティア募集に携わり、これを実施する」という目標は達成できた。また、それぞれの募集で１名以上の参加者を確保することもできた。

B．班活動の記録媒体の作成

活動記録としてのアルバムを作成できた。ボランティア参加一件につき２～３枚程度の写真を掲載し、活動内容がイメージしやすい記録を

目指した。

C．POP 作成

春の POP を作成できた。しかし、夏以降は POP の担当に関する議論が持ち上がったことなどから、作成には至らなかった。

4. 学んだこと・今後の課題

・作成したアルバムが、初見でアクティブ班の活動記録だと分からないという問題が指摘されている。また、アルバムがどこに置いてあるのかが周知されていないという声もあった。今後、アルバムの存在感をより強める方法を模索する予定である。

・厚紙などを用いた POP 作成は、アクティブ班員の得手不得手によってモチベーションに大きく差が出るという意見が出ていた。また、センター内の装飾をアクティブ班が担当することを疑問視する意見もあった。

今後、今のアクティブ班に合った新しい POP の形を模索していく予定である。

〈報告者：崇田 ゆきの〉

班　　名	コーデ班（瀬田）
趣旨・目的	学生スタッフが授業の空きコマにシフトを組み、来室者へボランティアの紹介・情報提供を行う活動を、コーデと呼んでいる。そのコーデ時間の管理や企画などを通して学生スタッフのボランティアコーディネート力向上のサポートをする。他の班とは違い、完全に学生スタッフに対して働きかけ、普段のコーデをより快適に、より有意義なものにできるように整備する。
班メンバー	杉山わかな（社会4）　中西亮太（社会3）　谷垣美幸（農学3）　亀田暖人（社会2） 川口克基（社会2）　石川拓海（先理2）　今村瑞季（社会1）　金田弥栞（社会1） 橋本彩希（社会1）　堀　夏穂（社会1）

1. 活動目標

・学生スタッフが不在となるコーデシフトを無くす。

・「シフトで最低限することが終わった後、何をすればよいかわからない」といった学生スタッフの声に対し、解消方法を考える。

・コーデ全般について、学生スタッフ全員が考える機会を持つ。

2. 活動内容

・前期と後期それぞれコーデシフトの調整を行った。昨年度に引き続き 3 コマ程度提示してもらうようにした。

・シフト中の新たな取り組みとして、チラシの中からオススメボランティアを一つ見つけ、オススメ理由などを書く欄を日誌に設けた。

・後期11月・12月まで模擬コーデ期間を設けた。

3. 目標達成度

【シフト管理】

・誰も入れないシフトの時間帯があったが、今までより少なくすることができた。

【コーデシフト中の活動】

・日誌にオススメのボランティアを書く場所を設けたことで、学生スタッフが少しはボランティアの内容を詳しく知ろうとする姿勢に繋がった。

【コーデに関する企画】

・模擬コーデを行うことによって、コーデを経験したことがなかった学生スタッフも少しは経験することができた。

4．学んだこと・今後の課題

・個々の学生スタッフが普段のシフト中に何をしているかを日誌で把握し、コーデ班の今後の取り組みにつなげられるようにする。
・学生スタッフがコーデ時間をもっと有効活用できるような呼びかけ、例えばボランティア先のホームページを閲覧し、ボランティア情報を把握するなどが必要だと考える。
・模擬コーデの振り返りをもっと深めて、より良いコーデができるようにする。
・コーデ時間の活用方法について、学生スタッフミーティングで考える時間を持つ予定だったが、できなかったので次年度は実施していきたい。

〈報告者：亀田 暖人〉

コーディネート日誌

月　　日（　）　講時　　来室者　　人

担当者：	欠席者：
遅刻者：	早退者：

【仕事チェック・やったこと】　完了ー○　　なしー×

仕事内容	チェック	連絡事項
チラシ枚数、期限チェック		
チラシの配架、閲覧、共有【あれば】		
おすすめボランティア探し		
傘チェック		
模擬コーデ【時間があれば】		
後片付け（消毒など）		

【引継ぎ事項（次のコーデの人にやってほしいこと）】

【おすすめのボランティア（チラシを見て）名前、おすすめポイントをかいてね】

【フリースペース】

記入者：

班　　名	環境整備班（瀬田）
趣旨・目的	センターの環境を整備する事で、学生スタッフの活動の円滑化、及び来室者の快適な利用を目指す。
班メンバー	家原美月（社会4）　吉岡秀太（社会4）　深木真人（社会3）　堀井涼花（農学3） 美野田愛（農学3）　松村春華（社会2）　小池日和（社会2）　幸山悠大（社会2） 土屋朝揮（農学1）　宇野姫愛（社会1）

1．活動目標

A．学生スタッフが使う備品管理や必要物を作成しつつ、年度末にセンター内がきれいな状態に保てているようにする。
B．学生部から提供された忘れ物の傘をセンターで管理し、突然の雨で借りたい人に貸し出す『リユース傘』を学生スタッフが対応する際、ボランティアに関心を持ってもらうよう働きかける。また、リユース傘が長期間未返却のままになることがあるため、それを解決する。
C．本の貸出率をあげる。

2．活動内容

・備品を出し入れしやすくするため、収納場所に収納品の名前を記載したり、新スタッフの名札を作成したりした。また、センターが汚れてきたらその都度ミーティング内で呼びかけるなどして、環境美化に努めた。
・リユース傘の返却対応のマニュアルを作成し、未返却者の対応については環境整備班が行うこととし、返却期限２日前にメールを送り、返却期限を過ぎている人には電話をかけるなどより細かく決めた。
・センター保有の図書の中からテーマを絞ってセレクトし、ピックアップコーナーを本棚前に設置した（テーマ：チームづくり、ワークショップ／図書名：「アイスブレイク＆リレーションゲーム」など）。
・前期はセンターで本の貸し出しを行っていることをセンター前の掲示板で広報し、後期はコーデ時に図書コーナーの宣伝を行ってもらうよう、学生スタッフ全員に周知した。
・リユース傘の貸し出し時やコーデシフトの際、ボ

ランティア紹介やセンター事業の広報を行えているかのアンケートを Google フォームで行った。

3. 目標達成度

活動目標Ａ：

センターをきれいに保つことができたと同時に、意識づけもできたと思う。

活動目標Ｂ：

リユース傘の管理や貸し出し・返却の際の宣伝について、Google フォームにてアンケートを実施したところ、約５割の学生スタッフが宣伝を行っていることが分かった。具体的な目標はきめていなかったが、学生スタッフ全員で取り組むとしていることなので､改善の余地があると考える。

活動目標Ｃ：

2021年11月から始めたおすすめ図書のピックアップコーナーで、図書の貸し出し率向上の効果が見られないため、2022年５月に打ち切りとした。その後、センター前の掲示板に本の貸し出しをしていることを掲示したり、リユース傘の対応やコーデの際に図書の宣伝を行うことを学生スタッフ全員で取り組むこととしているが、今後は他の案も必要であると考える。

4. 学んだこと・今後の課題

リユース傘の未返却者に対しメールや電話で知らせると決めたことで、班メンバーはメールの送り方や電話の仕方を学ぶことができた。一方で、学生スタッフ全員がリユース傘や図書の宣伝を忘れないようにするために、図書の貸し出しの意義を改めて学生スタッフ一人一人に理解してもらう必要がある。

図書の貸し出し率の向上が難しい問題となっている。他の学生スタッフにも一緒に改善案を考えてもらうなど、環境整備班だけでなく全体でこの問題の改善に向けて取り組んでいきたい。

〈報告者：松村 春華〉

班　　名	広報班（瀬田）
趣旨・目的	主に龍谷大学の学生に向けてボランティア情報等を発信することによって、ボランティア・NPO 活動センターの存在をアピールするとともに、ボランティア啓発を行う。
班メンバー	安原拓真（社会4）　中山美代子（農学3）　平石陽菜乃（農学3） 中村あや（社会2）　三枝亜伽莉（農学2）　東郷真穂（農学2）　小橋未沙（社会1） 佐田穂花（社会1）　白川ひかる（社会1）

1. 活動目標

【広報誌の発行】

相談受付シートなどのチェック項目「センターを知ったきっかけは何ですか」に、広報誌のチェックがつくよう内容を魅力的にし、積極的に配布する。

【掲示板】

定期的に掲示内容や雰囲気などを変えて目に留まるようにし、より多くの人に見てもらえるようにする。

【SNS】

インプレッション数やいいねを前年度より増やす。そのために、班メンバーだけでなく学生スタッフ全体でリツイートに取り組む。

2. 活動内容

【広報誌】

・新歓号の作成をし、配布した。（約1000部）

・ボラポの日記 vol.1を作成した。（100部）

【SNS（Twitter）】

おすすめボランティアやイベントの紹介を以下のとおり発信した。

投稿日	投稿内容	いいね	インプレッション
5/2	大学生ボランティア説明会	10	1,471
5/10	体験学習プログラム報告会	5	389
5/16	ウクライナ募金	10	7,626
5/24	祇園祭ごみゼロ大作戦	12	2,495
5/30	SDGs ワークショップ	6	354
6/6	森の風音	7	453
6/13	リーダー養成講座	6	984
6/20	施設訪問ボランティア	5	349
6/28	ブランチキッズ探検隊	5	467
7/6	マラソンボランティア	7	899
7/25	ボランティアコーディネーション力検定3級	4	405
7/25	卓球大会ボランティア	10	2,455
10/24	こども夢の商店街	4	343
10/27	木育ワンダーパーク	4	322
10/31	中丹サポートメイト	8	940
11/7	びわ湖マラソン	9	974
11/17	フードバンクびわ湖	6	459
11/18	イベントボランティア	6	1,081
12/26	福島オンラインスタディーツアー	2	203
1/16	ボラポの日記 vol.1	6	4,522
2/4	児童館ボランティア	4	2,122

【掲示板】

前期は季節に応じた飾りをつけて目を引くようにした。後期は広報班として掲示板の活動はできず、広報班以外のスタッフが掲示板を活用して、取り組みの紹介やボランティア情報の掲示などを行った。

3．目標達成度

【広報誌】

新歓の広報誌を作成し、配布した。秋号の制作はできず、形態を変えた「ボラポの日記」を作成し、１月に発行した。食堂などに掲示する予定だったができなくなり、今後の広げ方を考えていきたい。

【SNS（Twitter）】

前期は２週間に１回のペースでおすすめボランティアやイベントの紹介を投稿した。後期は１週間に２回投稿を目標にしていたが、取り組めなかった。

【掲示板】

活動は計画していたが、取り組めなかった。

4．学んだこと・今後の課題

広報誌・SNS・掲示板のどの広報手段においても、一人一人の意識が低く、また単独での作業になってしまいがちで、目標に設定したような頻度での活動ができなかった。役割分担やスケジュール管理などを見直し、更新頻度を増やしていきたい。また、他の班と協力しながら、広報誌・SNS・掲示板を通して学内外にボランティア・NPO 活動センターをアピールしたり、センターへ来室する人を増やしたい。

〈報告者：三枝 亜伽莉〉

班　　名	コミュニティ班（瀬田）
趣旨・目的	積極的に学生に働きかけ、相互的なやりとりを重視し、いろいろなサークルや学生と繋がりを作る
班メンバー	朝野健太（社会4）　松村優輝（農学3）　高橋慶太（社会3）　美野田愛（農学3） 幸山悠大（社会2）　中村あや（社会2）

1．活動目標

A．学内でのボランティア啓発を通して、ボランティアの楽しさ、やりがいなどを龍大生に伝える。

B．学内サークルや、普段センターまで足を運ばない龍大生との交流や情報交換の場を設ける。

2．活動内容

龍大生にボランティア活動を広めることがセンターの役割であり、学内の人と繋がりをもつにはまずセンターを知ってもらう必要がある。そこで、学生スタッフがボランティアを発信する場として『出張ボラセン』を行った。具体的には以下の日程で青志館食堂前にブースを設置し、チラシ配りやアンケートを実施した。

・５月20日　学生スタッフ企画『SDGs ワークショップ』の広報

・６月23日　地域からのボランティア募集チラシを何種類かセレクトして紹介

・７月11日　興味あるボランティアのシール投票とその活動の紹介

3. 目標達成度

A．…楽しさややりがいを伝えるためのやり方をその都度考えたが、『出張ボラセン』では結果的に学生スタッフ企画の発信やボランティア情報の提供、ニーズ調査に注力した形になった。

B．…『出張ボラセン』を通して、学部学年に関わらずに短時間で多くの人と交流ができ、興味のあるボランティアにシールを貼ってもらうことで学生の興味・関心傾向を掴むことができた。紹介したボランティアとその結果は以下のとおり。

分　野	募集団体	活動内容	投票数
こども	NPO 法人 CASN 晴嵐みんなの食堂	子ども食堂のお手伝い	39
環　境	森の風音	びわこ文化公園の整備活動	33
障がい	サマースクール	障害のある子供たちと一緒に遊ぶ	18

また、班メンバーだけでなく他の学生スタッフにも協力を呼びかけ、人数が増えることでより多くの人にアンケートを取ることができた。

4. 学んだこと・今後の課題

『出張ボラセン』を通して、学生スタッフが主体的に学内の人に声をかけ、センターの広報活動をすることで学生が耳を傾けてくれることや、それがセンター以外の人たちと関わることができる貴重な機会であることを実感した。

しかしながら、今後の展開を考えた時に、新たな方法ややりたいことが出てこなかったことから、コミュニティ班は、後期から活動を休止し、メンバーは他の班で活動した。

学内サークルを含めた龍大生が、地域と繋がるために積極的に働きかけることが学生スタッフの役割なので、コミュニティ班が担っていたことを次年度以降どのように取り組んで行くのか、学生スタッフ全員で検討することが今後の課題に挙げられる。

〈報告者：中村 あや〉

班　　名	発掘し隊（瀬田）
趣旨・目的	・実際にボランティア活動に参加する事で、チラシや情報シートからは得る事ができないボランティア活動の魅力を発掘する。 ・ボランティア活動に参加して得た情報を発掘ノートにまとめる。また、発掘ノートや PowerPoint を利用し、情報を来室者や他の学生スタッフに共有する事で、より質の高いコーデに繋げる。
班メンバー	一色剛滉（社会4）　高橋慶多（社会3）　片岡克望（社会3）　池本結希菜（社会2） 関　鉄仁（農学2）　成川雅妃（社会2）　丸山汰一（農学2）　倉田若菜（社会1） 蔵本千優（社会1）　関塚美帆（社会1）　土屋朝揮（農学1）　木部美紗紀（社会1） 萩原千絵（社会1）

1. 活動目標

A．３カ所以上のボランティア活動に参加し、その魅力を伝える発掘ノートを作成する。発掘ノートは、活動参加後、２週間以内に完成させる。

B．完成した発掘ノートを、学生スタッフミーティングで共有し、コーデシフト中の活用を促す。

C．訪問した団体のボランティア活動の魅力や情報を来室者以外にも伝えるため、SNS ツールで発信する。達成目標は、１ツイートにつき閲覧

数800を目指す。

2. 活動内容

年間４ヶ所の活動を行い、各活動先の情報や魅力、活動してみた感想などを伝えるため、発掘ノート作成や学生スタッフミーティングで発表した。夏の活動後には、課題点や改善点、良かった点などを話し合い、その内容も学生スタッフミーティングで発表した。

活動日	活動先	活動内容	人　数
4/3	森の風音	びわこ文化公園の森林整備活動	３名
8/23	サマーホリデー	障がい児の余暇支援活動	４名
9/2	京都市深草児童館	小学生と一緒にいろいろな遊びを体験する	３名
9/17	のぞみちゃん食堂	大津市の膳所で行われている子ども食堂	４名

3. 目標達成度

A…前期と後期に様々なイベントと重なってボランティアに行けなかったり、調整がうまくいかず、活動回数が減ってしまった。また、発掘ノートを２週間以内に作成できなかったり、作成すらできていないものもあった。

B…ボランティア先の情報共有に関しては、春夏共にPowerPointのスライドをうまく作って発表ができたが、コーデにそのスライドを生かすことができていなかった。

C…SNSは一度も発信できなかった。

4. 学んだこと、今後の課題について

・ボランティア先との連絡・調整で、双方の思い違いや不備が生まれないように、しっかりこちらの意図を伝えていきたい。また、連絡時に参考となる定型文を作って、誰もが調整をしやすいようにしていきたい。

・SNS発信週間を前期・夏休み・後期・春休みの期間に作り、発信を忘れないようにする。

・発掘ノートが活用されているかがわからないため、発掘ノートに関するアンケートを取る。

・学生スタッフ全体がグループに分かれて夏休みに自主的に活動する「夏ボラ」と発掘し隊の活動先が重なってしまったため、日程や活動先が被らないように調整する必要があった。夏ボラと発掘し隊の活動時期をずらすなど、解決策を考えていきたい。

・活動先を決める従来のプロセスでは、班としての活動回数が限られてしまうので、もっと回数を増やせる方法を考えて行きたい。

・活動先での様子や詳しい活動内容は、学生スタッフミーティングでしか発表できていなかったので、その他の龍大生に向けて紹介する機会を設けてもいいのではないかと考えている。

〈報告者：関 鉄仁〉